「デ イ プ ロ フ オ ニ イ」ニ 就 テ

Dr. Soichi Handa: On Diplophonia.

名古屋醫科大學耳鼻咽喉科學教室 (主任 阿久根教授)

専攻生 醫學士 半 田 宗 一
ヘン ダ ソウ イチ

(本論文ノ要旨ハ昭和 12 年 12 月第 56 回大日本耳鼻咽喉科會)
(名古屋地方會ニ於テ發表セリ。)

試ミニ「デ イ プ ロ フ オ ニ イ」ナル言ヲ W. Guttman ノ辭書ニ求ムルニ次ノ如シ。Diplophonie ハ又 Diphthongie トモ稱セラレ、發聲ニ際シ、各音ノ判然ト識別シ得ル 2 個ノ異ナル調子ノ聲音ノ同時ニ發現スルヲ意味シ、本症狀ハ其臨牀的意義トシテ喉頭ニ於ケル新生物、聲帶ノ偏側運動麻痺ノ爲メ診斷の價値アルモノトセリ。

Wien ノ L. Stein ニ依レバ、聲樂家殊ニ高音ノ使用量多キ「ソプラノ」、「テノール」歌手ニ往々聲帶ニ歌唱結節發生シ易ク、此物ハ「デ イ プ ロ フ オ ニ イ」ノ原因ニナリ易シト。

余翻リテ本邦ニ其文献ヲ求メシニ、遺憾乍ラ皆無ナリキ。

余ハ最近「デ イ プ ロ フ オ ニ イ」ト考ヘラレシ 1 症例ニ遭ヒタルヲ以テ、茲ニ報告セントス。

患者ハ 36 歳ノ健康ナル人夫監督ニシテ 職業ノ關係上終日野外ニテ大聲ヲ使用セリ。初診ハ昭和 12 年 2 月 19 日ナリ。主訴ハ約半年以前ヨリ始マリシ發聲障害ナリ。即チ最初認メラレルベキ誘因無ク、嘔聲トナリ次第ニ症狀激シクナリ。最近ニ到リテハ嘔聲ハ遂ニ無聲ニ迄進行

セリト、爲メニ工事監督ノ勤務ニ差支ヘ、由ツテ余ノ外來ヲ訪レタルナリ。局所痛、咯痰無ク食慾可良ナリ。

既往歴トシテ約 9 ヶ月以前顔面火傷ノ爲メ入院治療ヲ受ク。現在完全ニ治癒セリ。微毒ハ否定ス。

局所所見トシテ咽頭粘膜ノ輕度ノ發赤アリ、鼻腔、兩耳ニハ著シキ變化無シ。

喉頭所見：粘膜輕度ニ發赤ス。聲帶ハ兩唇共ニ稍々濁潤シ、本來ノ臙穢光澤ヲ失ヒ、左側唇ノ前部ニ明カニ新生物ヲ見タリ。灰白色、不正型ニシテ、廣基性ニ聲唇ノ游離縁ニ附着ス。試ミニ「ゾンデ」ヲ以テ觸診スルニ軟柔ナリキ。局所淋巴腺腫脹ナシ。即チ該新生物ノ兩唇間介在セシ爲メ發聲運動ヲ行ハシメシモ、兩唇ハ正常ノ如ク内轉ヲ行ハズ、腫瘍介在ニ依ル無聲ナルコト明カナリキ。

余ハ各所見ヲ綜合シ 臨牀上粘液「ポリープ」ト診斷シ、患者ニ「ポリープ」切除ヲ薦メタリ。仍ツテ萬能喉頭鉗子ヲ用ヒ、該「ポリープ」ノ摘出ヲ行ヒシニ、其廣基性ナルコト、組織ノ柔軟ナリシ爲メ、該「ポリープ」ノ摘出ニハ困難

ヲ感ジ、漸ク一部分ヲ切除セシニ既ニ患者ハ疲勞甚シクナレリ。由テ當日ハ患者ヲ歸宅サセ翌日殘存片ノ摘出ヲ約ス。

4日後患者ハ再ビ余ノ外來ヲ訪レタリ。患者ハ以前ニ比スレバ發聲ハ相當容易ニナレリト云フ。會話中患者ノ喉頭音ハ明ニ2個ノ音ヨリ成立セルコトニ余ハ氣が付キタリ。即チ其際低調ナル男子ノ會話音ト之ト別個ナル調子高キ金屬性ノ音トヨリナレリ。之「ディプロフォニイ」ニ他ナラズ。

余ハ殘存片ヲ完全ニ摘出ヲ行ヒシニ、カノ金屬性音ハ消失セリ。摘出組織片ハ檢鏡セシニ果シテ粘液「ポリープ」ニシテ、患者ハ夫レ以來治療セリ。

考 案

吾人ノ聲音ハ物理學的ニ按ズレバ音響ニ他ナラズ。聲帶ガ其發音振動體ノ役割ヲナセルハ既ニ解剖、生理學上吾人ノ熟知スル所ナリ。メルクェルハ聲帶振動運動ニヨリ喉頭ニ一次的ニ生ズル音ヲ喉頭音(Kehlton)ト命名セリ。該一次的喉頭音ハ咽腔、鼻腔、副鼻腔、口腔其他ノ共鳴作用ノ爲メ、一層音ノ物理的「エネルギー」ヲ大ニナシ、或ハ所謂「フォルマント」ノ作用ヲ受ケ茲ニ吾人ノ聲音ハ二次的ニ發生スルモノナリ。

然レドモ喉頭音ハ往々ニシテ異型的ナ發生機構ヲトルコトアリ。假聲帶音聲ハ其1例ニシテ聲帶ノ機能不全、又ハ廢絶セシ場合、代償的ニ假聲帶ノ振動運動ニヨリ喉頭音ヲ作ルコトナ

リ。Laryngitis hypoglottica 即チ pseudoroupノ際、聲帶下粘膜ノ腫脹甚シキ場合、該部ガ振動ヲ起シ、其不愉快ナル低調音ヲ以テ聲帶本來ノ喉頭音ニ代ハルコトアリ。

「ディプロフォニイ」モ異型的ナ喉頭音ノ一種ニシテ、其發生「メハニスムス」ハ未ダ充分ナル詳述ナシ。サレドモ2個ノ音ノ存在スル以上、振動體モ2個存在スルヲ必要ナル條件トスルモノナリ。是レニ喉頭内ニ何等カノ共鳴體ノ存在ニヨル場合ナキヤノ疑問起ルコトアルベシ。共鳴ニヨリテ、二次的ニ生ズル音ハ原音ト同一振動數ヲ保持スベキモノナレバ、原音ヲ擴大スベキ效果ヲ有シ故ニ此共鳴音ト原音トノ判別ハ困難ニシテ若シ兩者ノ間ニ認メラレルベキ相違アリトシテモ、ソハ音ノ高サノ差ニ非ズシテ音色ノ差ナリ。之 W. Guttman ノ説ニ反ス。即チ喉頭内ノ共鳴ニヨリテ「ディプロフォニイ」ノ現象ノ現レルコト無シ。

即チ「ディプロフォニイ」ノ發生ニハ必ズ2個ノ相異レル振動體ノ存在ヲ必要トス。

余ノ症例ノ場合ヲ按ズルニ、不完全ナル「ポリープ」摘出術ノ爲メ、聲帶自身ハ固有ノ振動ヲ行フモ、他方不規則ナル型體ヲトレル該「ポリープ」ノ殘存片ハ聲帶ノ固有振動體系ヨリ全ク分離シ、別箇ノ週期ヲ以テ振動ヲナスモノナリ。

結論：余ハ36歳ノ男子ニ於テ其發生セン喉頭「ポリープ」ノ摘出ニ際シ、殘存「ポリープ」片ノ爲メ起リタル「ディプロフォニイ」ヲ報告ス。

稿ヲ終ルニ臨ミ、御懇篤ナル御校閲ヲ賜ハリタル恩師阿久根教授ニ深謝ス。

主 要 文 献

- 1) 小幡重一：實驗音響學。 2) 小幡重一：音。 Sprach-und Stimmstörungen. 8) **W. Guttman**:
3) 林義雄：聲樂ノ醫學。 4) 細谷雄太：細谷耳 Medizinische Terminologie. 9) **Musehold**: Aku-
鼻咽喉科學。 5) 岩田一：近世耳鼻咽喉科學。 6) stik und Mechanik des menschlichen Stimmor-
岡田和一郎：新選耳鼻咽喉科學。 7) **L. Stein**: gans.

(原稿到着＝昭和 13・6・25)